

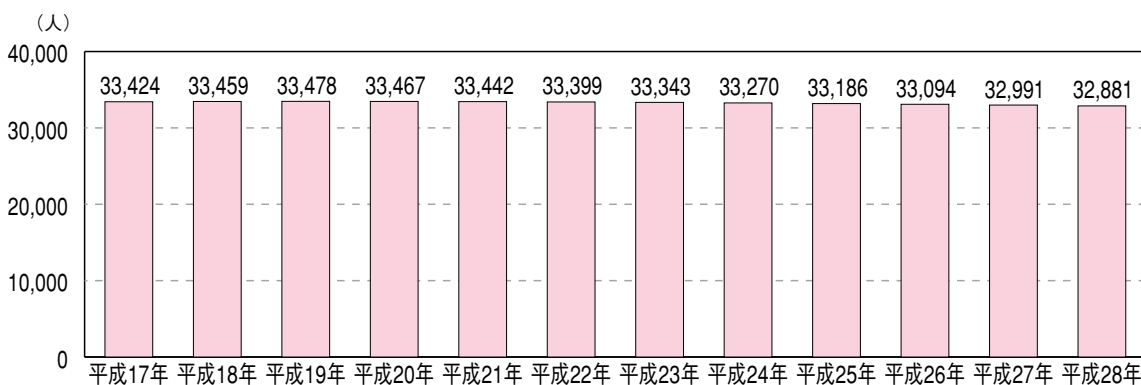
# 第3章 まちづくりを取り巻く背景

## 第1節 人口の予測

住民基本台帳からセンサス変化率法により推計を行うと、本町の総人口は、平成17年から平成19年まで微増を続け、平成20年からゆるやかに下降しますが、平成26年まで33,000人規模で推移し、計画の目標年次である平成28年には、32,881人になると予測されます。

また、年齢3区分別人口の割合を平成18年と平成28年で比較すると、年少人口、生産年齢人口の割合が減少しているのに対し、老年人口の割合は増加していることが顕著にみられます。

### ■将来推計人口



※平成13年から平成17年住民基本台帳（10月1日現在）をもとに、センサス変化率法によって算出。  
※センサス変化率法は、コーホート法の一つで、時間的変化の中に、出生、転出・転入、死亡が含まれている推計方法。  
【コーホート法：一定期間に出生した集団（コーホート）に着目し、5歳別や1歳別に、その時間的変化（5年後や1年後の人口の変化）を、将来も一定であると仮定し、推計する人口推計方法。今回の人口推計では、平成13年から平成17年住民基本台帳（10月1日現在）をもとに、1歳別に推計。】

### ■年齢3区分別人口割合の推計

